

公益財団法人

黒田緑化事業団

植樹と緑化事業への支援を通じて本来の “緑豊かな大阪”を目指します

法人について

公益財団法人黒田緑化事業団は、コクヨ株式会社創業者黒田善太郎の次男である黒田敏之助が、父の思いを受け継ぎ、大阪に緑を増やすべく私財を投じて設立した財団法人です。

50年間に寄付した樹は約40万本、金額にして30億円にのぼります。

当財団は、公共の場所（公園、街路樹、学校、公共の建物）に樹を植え、緑を増やすことを目的としており、大阪府内の地方公共団体及び外郭団体に対して当財団自らが植樹事業を行っています。

取組内容について

大阪市「グラングリーン大阪」

まち全体がみどりに包まれた「うめきた2期地区」の都市景観にふさわしい道路景観を生み出すため、高規格の街路樹を植栽するとともに、連続植栽帯による緑化を基本とし、豊かな緑を市民に提供します。

2022年～2024年の3年間にイチョウ、ケヤキ、クスなど、約360,000千円分の植樹を実施しました。



大阪府「大阪関西万博 静けさの森」

2025年4月開催の大阪・関西万博の会場中心部に整備される「静けさの森」にカエデ、クスなど約200,000千円分の植樹を実施しました。

この森には、府内公園等から移植する樹木も併せて植樹し、総数1,500本の大きな森をつくることで、会場の喧噪の中であって、ひとときわ静かで落ち着くことができる場所をつくります。